

令和7年度第2回加古川市子ども・子育て会議 議事要旨

【日時】 令和8年3月6日(金) 10時30分～11時45分

【場所】 加古川市役所新館 10階大会議室

【出席委員】 松田会長、深川委員、宮井委員、大野委員、北野委員、高瀬委員、
本山委員、山本浩委員、山本美委員(9名)

- 【会議次第】
- 1 開会
 - 2 会長・副会長の選出について
 - 3 議事
 - (1) こども誰でも通園制度、こども・若者計画 代用計画の策定について
 - (2) こども誰でも通園制度にかかる認可について
 - 4 報告事項
 - (1) 若者(高校生及び大学生世代)への市政に対するアンケート調査結果【令和7年10月】について(加古川市若者応援クーポン給付事業にて実施)
 - (2) 若者委員の公募について
 - 5 その他
 - (1) 園の再編に関する進捗状況について
 - (2) 今年度の総括
 - 6 閉会

- 【配付資料】
- 資料1: 「こども誰でも通園制度」について基礎資料集(こども家庭庁)
資料2: こども誰でも通園制度の公定価格について(こども家庭庁)
資料3: 「乳児等通園支援事業(こども誰でも通園制度)」の「量の見込み」の算出方法について
資料4: 第三期市町村子ども・子育て支援事業計画 代用計画(案)
資料5: 乳児等通園支援事業 実施事業者にかかる認可及び確認について
資料6: 乳児等通園支援事業 令和8年4月1日付け認可(予定)に伴う利用定員の設定について
資料7: 若者(高校生及び大学生世代)への市政に対するアンケート 調査結果【令和7年10月】
資料8: 若者委員の公募について
参考1: こども誰でも通園制度利用者向けリーフレット(こども家庭庁)
参考2: こども誰でも通園制度事業者向けリーフレット(こども家庭庁)

【議事要旨】

1 開会	
2 会長・副会長の選出について	委員の互選により、会長に松田委員、副会長に阿部委員を選出。

3 議事	<p>(1)こども誰でも通園制度、こども・若者計画 代用計画の策定について</p> <p>資料1～4により説明</p> <p>令和7年10月に、令和7年度専門部会加古川市子ども・子育て会議を開催し、議題「乳児等通園支援事業(こども誰でも通園制度)にかかる「量の見込み」の算出について」を審議したことを事務局より報告。専門部会の構成委員は、松田委員、阿部委員、宮井委員、澤田委員、北野委員。</p> <p>委員 資料1 P29に、親子通園について記載があるが、検討している園はあるのか。</p> <p>事務局 親子通園の実施は必須ではないが、現時点で検討している園はあると聞いている。実際の実施については、園と保護者の話し合い次第となる。</p> <p>委員 こども誰でも通園制度について、市民への周知が不十分であると感じているが、どのように広報を行っていく予定か。</p> <p>事務局 制度を利用するにあたり、まずは利用者が市に申請し、利用認定を受ける必要がある。こちらは3月中旬から下旬に始める予定。広報について、まずは市ホームページに掲載する。広報誌には5月号もしくは6月号に掲載する予定。また、全国一律で始まる制度なので、おそらく国が広報をすることを考えている。その状況もふまえて、市においても広報を進めていく。</p> <p>会長 代用計画について、事務局案で承認してよろしいか。</p> <p>委員 異議なし。</p> <p>(2)こども誰でも通園制度にかかる認可について</p> <p>資料5、6により説明</p> <p>委員 利用方法について、定期利用と柔軟利用があるようだが、各園ではどちらにするか既に決めているのか。新規の利用者について、受入は可能か。</p> <p>事務局 利用方法については園に裁量があるため、市から指示することはない。市民が利用する際には、システムもしくはホームページなどから園を探し、直接園に連絡することになる。その際に、利用方法等について利用者と園で調整していく、という流れである。ただし、園においては、人員確保の影響を鑑み、定期利用を優先していく可能性はあると考えている。</p> <p>委員 こどもが園に慣れるまで時間もかかるだろうし、園にとっては定期利用が良いのではと私も感じる。ただし、利用者からすれば柔軟に預けたいという希望もあると思うので、新規枠、継続枠といったような方式を検討していただければ有難い。</p> <p>事務局 市としても初めての試みのため、利用者のニーズ把握はどこかのタイミングで行いたいと考えている。</p> <p>委員 特別な配慮が必要なこどもの受入についてはどのような状況か。</p>
------	--

<p>事務局</p> <p>委員</p> <p>会長</p> <p>委員</p>	<p>資料6の園においても、特別な配慮を必要とするこどもを受入れている実績はある。ただし、特に医療的ケアを必要とするこどもの受入については、看護師の配置が必要などハードルが高い。既存の保育事業においても看護師の確保が困難であり、今回のこども誰でも通園制度において医療的ケア児の受入は困難と聞いている。</p> <p>こども誰でも通園制度は、園に通うことに慣れていないこどもを受入れることになるため、保育士の負担が大きくなるのではと危惧している。職員への負荷が大きくなると、職員のメンタル等に問題が生じないかと心配している。</p> <p>認可について、全て承認してよろしいか。</p> <p>異議なし。</p>
<p>4 報告事項</p> <p>委員</p> <p>事務局</p> <p>委員</p> <p>事務局</p> <p>委員</p> <p>事務局</p> <p>委員</p> <p>事務局</p> <p>委員</p>	<p>(1)若者(高校生及び大学生世代)への市政に対するアンケート調査結果【令和7年10月】について(加古川市若者応援クーポン給付事業にて実施)</p> <p>資料7により説明</p> <p>アンケートの実施方法がWeb上とのことだが、どのように実施したのか。回答率がかなり高いと感じた。</p> <p>全対象者に案内文を郵送し、案内文に二次元コードを載せ、スマートフォン等で読み取る仕組みとしている。読み取り後、アンケート回答を依頼する仕組みとしており、回答しないと、若者応援クーポン15,000円分を受給できない仕様としていたため、対象者約17,500名のうち回答率96%と高くなっている。</p> <p>アンケート結果について、住んでいる地域によって、東西や南北で結果の傾向が変わるのではと感じている。地域別の結果に興味があり、そういった結果も見れたら良いと感じた。</p> <p>居住地の設問を設けているため、公表はしていないが、分析できる状態にある。</p> <p>感想にはなるが、回答率がかなり高いと感じた。やはり今の高校生・大学生世代は、オンラインに強いのか。</p> <p>加古川市若者応援クーポン給付事業については、キャッシュレスポイントを希望しない方向けに、カタログギフト冊子も準備していたが、カタログギフト冊子の希望者は40人弱であった。割合から見ても、かなりの方がキャッシュレスポイントを希望したことになる。</p> <p>そのため、高校生・大学生世代であれば、Web手続きもかなり柔軟に使いこなしているという印象を受けた。</p> <p>(2)若者委員の公募について</p> <p>資料8により説明</p> <p>公募ということだが、どのように周知を行う予定か。どの程度若者の目に留まるかを危惧している。</p>

	<p>事務局 市ホームページ及び広報かこがわ4月号にて掲載を予定している。その他は申し込み状況をみながら、兵庫大学や市内図書館等に広報の協力を依頼することも検討している。</p> <p>委員 応募条件について、「平日の昼間に開催する会議に出席できる方」とあるが、年間の開催回数の目安があった方が応募しやすいと感じるが、いかがか。</p> <p>事務局 今回の資料には記載していないが、募集要項には年間の会議開催回数の目安を記載している。</p> <p>委員 任期が2年とあるが、大学4回生の場合は次の年に社会人となるため、応募を断念する人が出てくる可能性がある。一方で、大学生で一番時間を持って余しがちであるのも4回生のため、もったいないと感じた。</p> <p>事務局 確かにご指摘のとおりだとは思いますが、市としてはある程度継続して審議に参加していただきたいという意図もあって2年間と定めている。委員の任期途中で、継続が困難のため辞退の申し出があれば、他の委員と同様に受け入れることになる。任期については、検討していきたいと考える。</p> <p>委員 仮に2名を超えて応募があった場合、どのように選考するのか。</p> <p>事務局 書類選考を行う。応募書類に、記述式の設問を多数用意しており、加古川市のこども・若者施策への思い等についての記載を求めている。</p>
<p>3 その他</p>	<p>(1)園の再編に関する進捗状況について 口頭により説明</p> <p>事務局 本日の神戸新聞においても大きく記事が掲載されていたが、令和8年4月に、市内の複数の園にて統廃合が行われる。令和6年度に審議いただいた「加古川市立就学前教育・保育施設の再編計画」に基づくものである。 また、新たに、幼児教育センターをかこいこども園に併設し、公立園・民間園を問わず、保育士の研修や、幼児教育アドバイザーを配置し巡回・助言などの支援を行う予定としている。</p> <p>(2)今年度の総括</p> <p>会長 本日が、今年度最後の会議開催となるので、各委員から発言をいただきたい。</p> <p>委員 こども誰でも通園制度について、協力したいという気持ちもありつつ、国の今後の動向が不透明な部分があり実施には踏み出せていない。今後も引き続き、市の子育て施策が良い方向に向かっていくことを期待している。</p>

委員	この審議会にも長く在籍しているが、分からないこともありながら日々勉強しつつ参加している。この会議で公募委員の方々が、園側の立場も考えてくださっていることを実感し、とても有難いと感じている。保育士にもどんどん新しいことを実施してもらっており、子ども達を預かりながらの中でとても大変な日々だが、それでも子ども達の笑顔を糧に毎日を過ごしている。子ども達の笑顔を守るためにも、少しでもお力になりたいと考えている。
委員	普段小学生とかかわる立場にあり、近隣の幼稚園・子ども園の先生方との意見交換が続いている。少しでも子ども達の役に立ちたいと考えている。
委員	本日の会議でも、若者への市政に対するアンケート調査結果をみると、加古川市にプラスの感情を持っている若者が多いと見受けられる。しかし、そのような若者が加古川市で就職をせずに他市町、他府県に出てしまっているという事実があることは皆さん認識のとおりかと思う。そういった高校生・大学生世代が、引き続き加古川市で就職し、住み続けてくれるように、大きな視点からも意見交換をしていきたい。
委員	子ども誰でも通園制度にて特別な配慮を必要とする子どもについて話があがったが、加古川市障がい者基幹相談支援センターにも相談があるが、やはり現実問題として、1人の子どものために看護師を雇用するのはなかなかハードルが高いと認識している。何かサポートできることがないか、助けとなる仕組みがないかを感じているところである。 若者委員の公募についても、志高い若者が2名以上応募してくれることを期待している。
委員	子育てひろばを毎月各公民館にて開催しているが、参加者はかなり少なくなってきている。各公民館へのチラシ配架では限界があると感じている。先日Webにて記事をのせていただいたら、播磨町や稲美町など他の地域から参加された方もおり、オンラインの効果は高いと実感したところ。子育てひろばは、保護者の孤立を防ぐ役割もあり、親子が気軽に集うことを目指している。 子ども誰でも通園制度も保護者が気軽に柔軟に活用できる制度になって欲しい。
委員	この審議会に参加して4年間が経ち、その間には、子どもの入園から、自身の就職と生活に変化があり、悩むこともあった。そのような中で、市の事業の現在の状況や、今後への希望・期待について発言する機会を与えてもらったことにとても感謝している。この審議会に参加し勉強を重ねることで、自分の事だけでなく視野を広く、色々な視点で物事を見る機会にもなったので、ぜひ若者委員にも集まってもらいたい。
委員	子どもが幼稚園、特別支援学校に通っておりそれぞれの保護者と交流がある中で様々な意見を聞くことがある。また、パートで子どもと関わる仕事もしており、色々な目線での意見、自分の思いを発言する機会をいただけたことを有難く思っている。今の子ども達は小さいころから習い事をしている子も多く、公園に行っても誰もいなかったりと横のつながりが乏しくなっていると実感している。子どもをみんなで支え合うことのできるあたたかい加古川市になっていくと嬉しい。
6 閉会	